

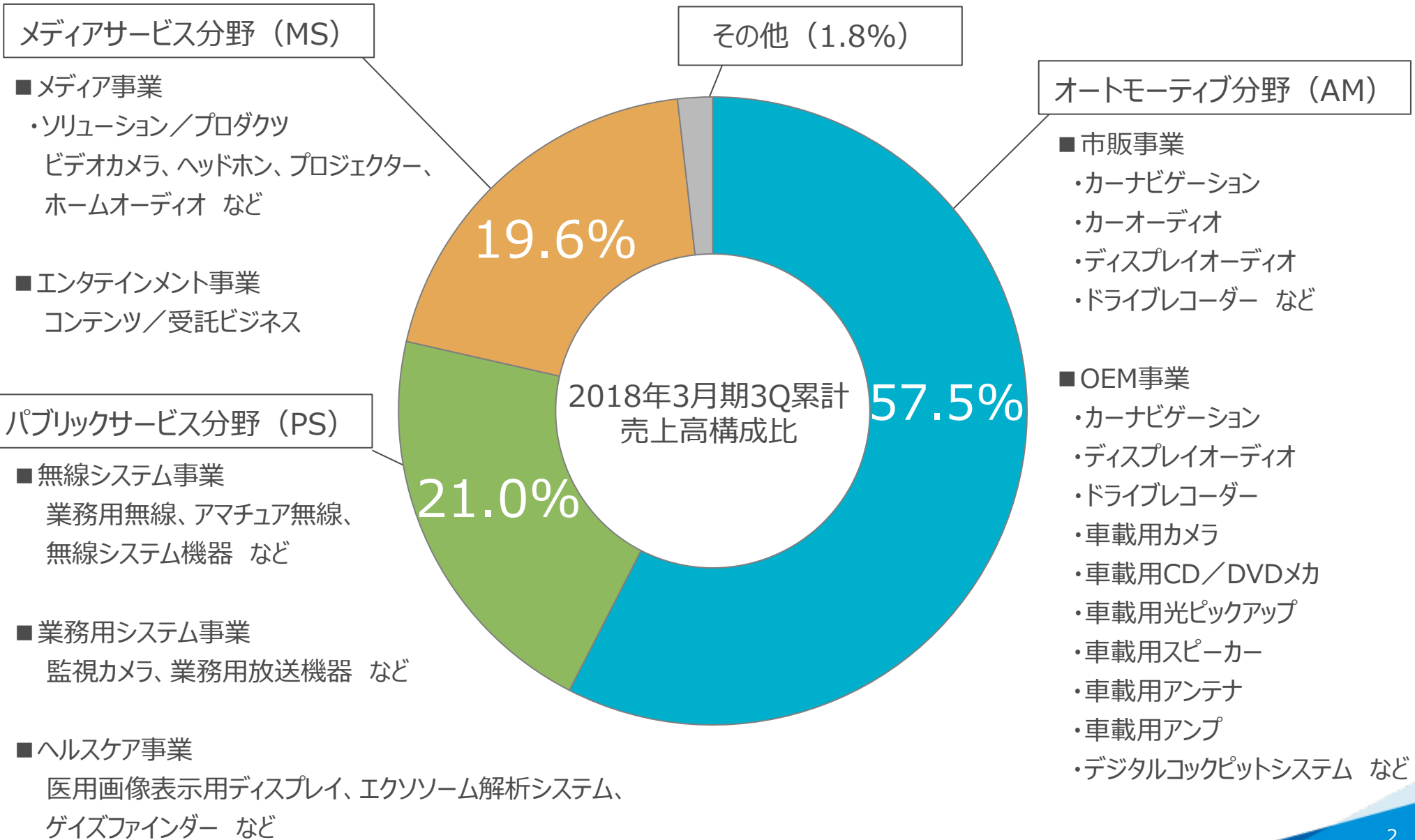
# JVCケンウッド 決算説明資料

## 2018年（平成30年）3月期 第3四半期

2018年2月1日

株式会社JVCケンウッド

# 事業内容



- 1. 2018年3月期 第3四半期決算概況**
- 2. 2018年3月期 通期業績予想**
- 3. トピックス**

**1. 2018年3月期 第3四半期決算概況**

2. 2018年3月期 通期業績予想

3. トピックス

# 2018年3月期 3Q決算（累計） ハイライト

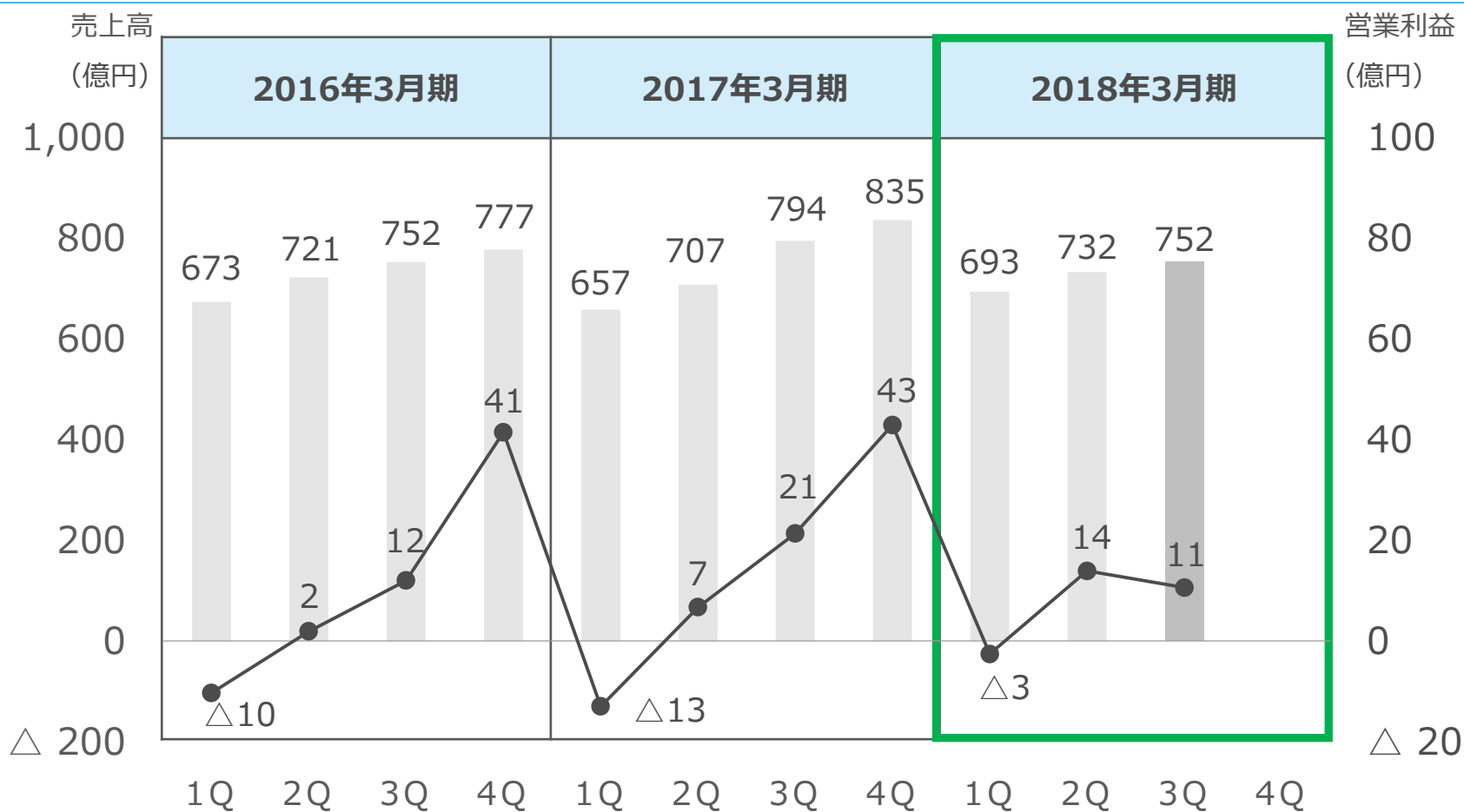
- 売上高は、AM分野OEM事業の大幅な販売増により、増収
- 営業利益は、AM分野OEM事業の大幅な増益効果により、増益
- 経常利益は、営業利益の大幅な増加、営業外収支の改善により、黒字転換
- 四半期純利益は、経常利益の増加、特別損失減少などにより、黒字転換

(億円)

	'17/3期 3Q累計		'18/3期 3Q累計		前期差
		構成比		構成比	
売上高	2,158	100.0	2,177	100.0	+ 19
売上原価	1,588	73.6	1,607	73.8	+ 19
販売費及び一般管理費	555	25.7	548	25.2	△ 7
営業利益	15	0.7	22	1.0	+ 7
経常利益	△ 3	△ 0.1	17	0.8	+ 20
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 107	△ 5.0	18	0.8	+ 126

		'17/3期					'18/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	108円	102円	109円	114円	108円	111円	111円	113円		
	1ユーロ	122円	114円	118円	121円	119円	122円	130円	133円		

# 2018年3月期 3Q決算 四半期別実績推移



		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
損益為替レート	1米ドル	121	122	121	115	108	102	109	114	111	111	113	
	1ユーロ	134	136	133	127	122	114	118	121	122	130	133	

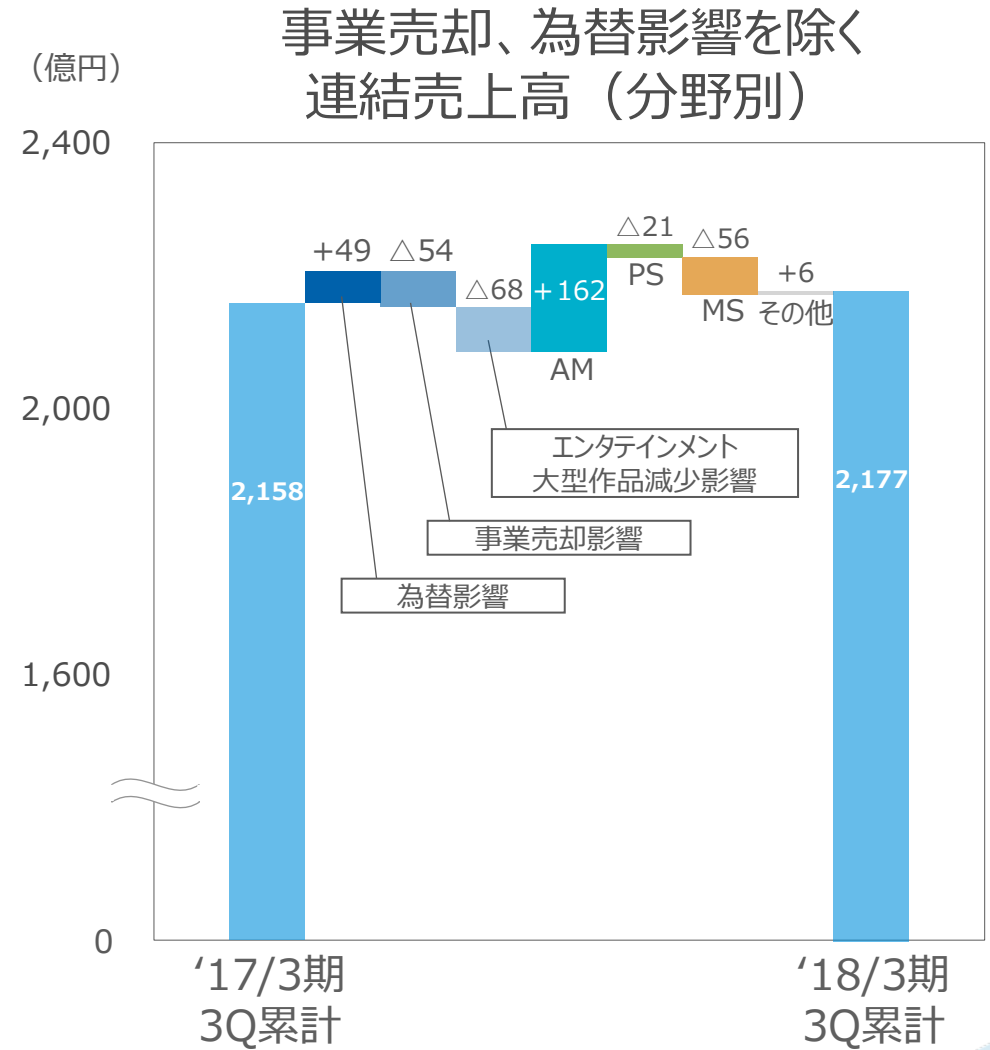
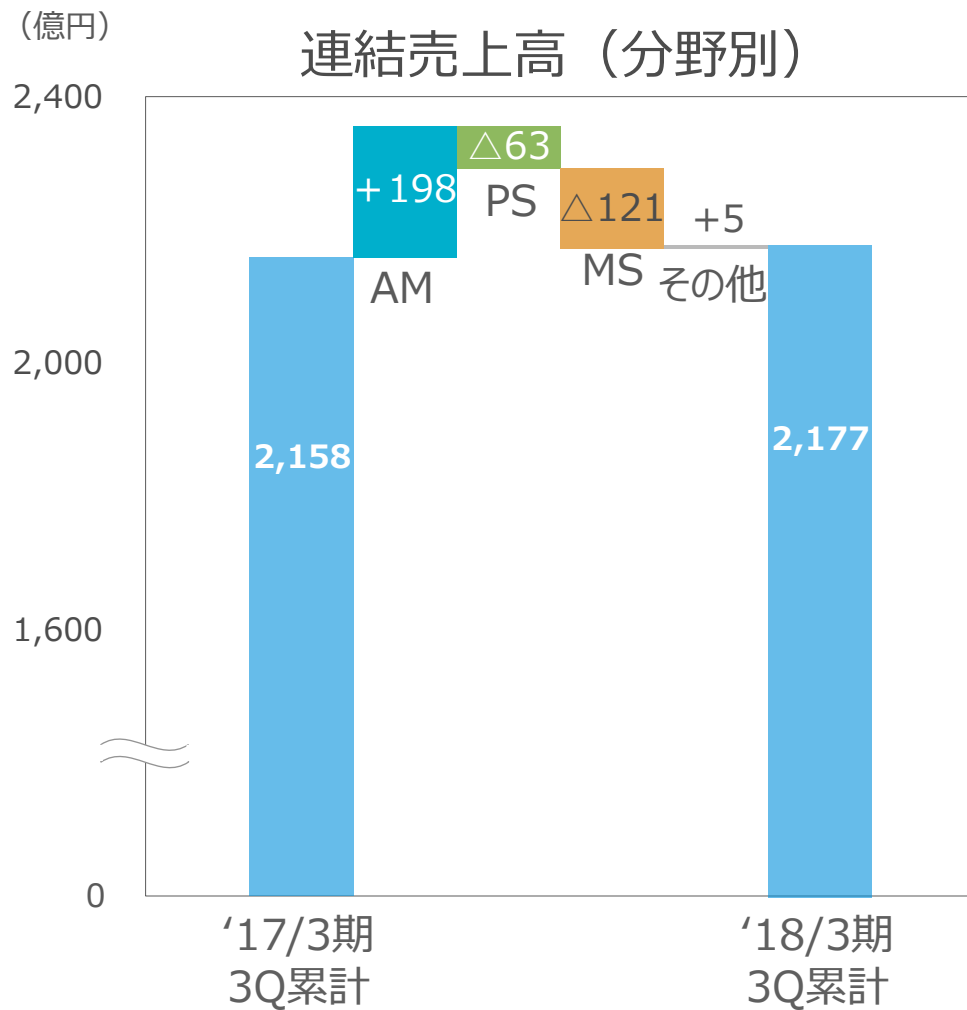
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	1,394	1,528	1,364	1,629	1,425	
営業利益	△ 8	53	△ 6	64	11	

# 2018年3月期 3Q決算（累計） 分野別の状況

(億円)

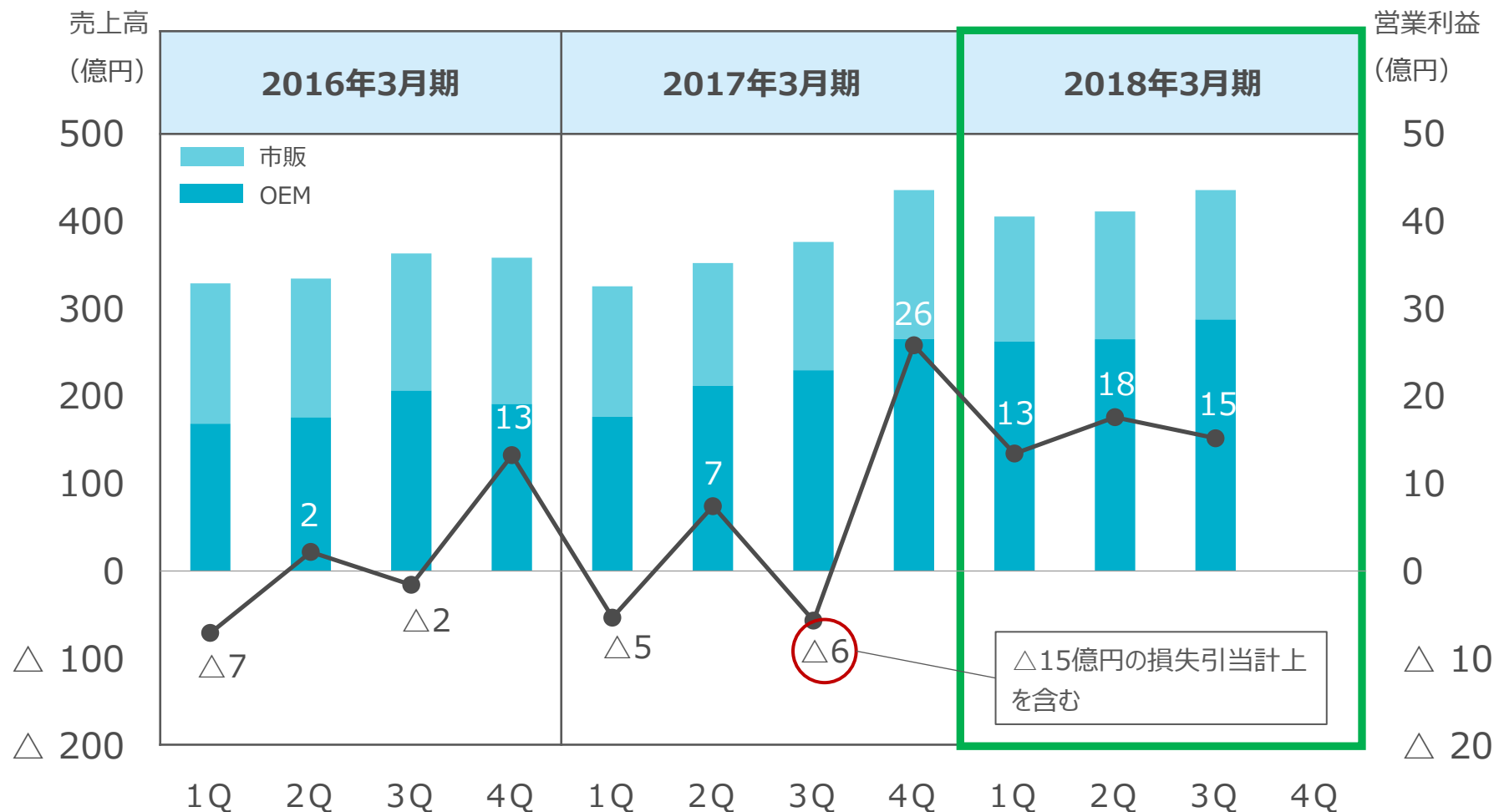
		'17/3期 3Q累計	'18/3期 3Q累計	増減	前期増減率	要因
オートモーティブ	売上高	1,055	1,252	+198	+18.8%	* OEMの大幅増収により、分野全体で増収 * OEMの大幅増益により、分野全体では黒字転換
	営業利益	△ 4	46	+50	-	
パブリックサービス	売上高	521	457	△ 63	△12.2%	* 業務用システムの事業売却影響△51億円などにより、分野全体で減収 * 無線システム、業務用システムともに減益となり、分野全体でも損失拡大
	営業利益	△ 3	△ 20	△ 18	-	
メディアサービス	売上高	549	428	△ 121	△22.0%	* メディア、エンタテインメントとも販売減となり、分野全体でも減収 * メディアの損失縮小も、前年に大型作品があったエンタテインメントが減益となり、分野全体では減益
	営業利益	17	△ 4	△ 21	-	
その他	売上高	34	39	+5	+14.2%	
	営業利益	4	0	△ 4	△99.5%	
合計	売上高	2,158	2,177	+19	+0.9%	
	営業利益	15	22	+7	+45.9%	

# 2018年3月期 3Q決算（累計） 連結売上高（分野別）





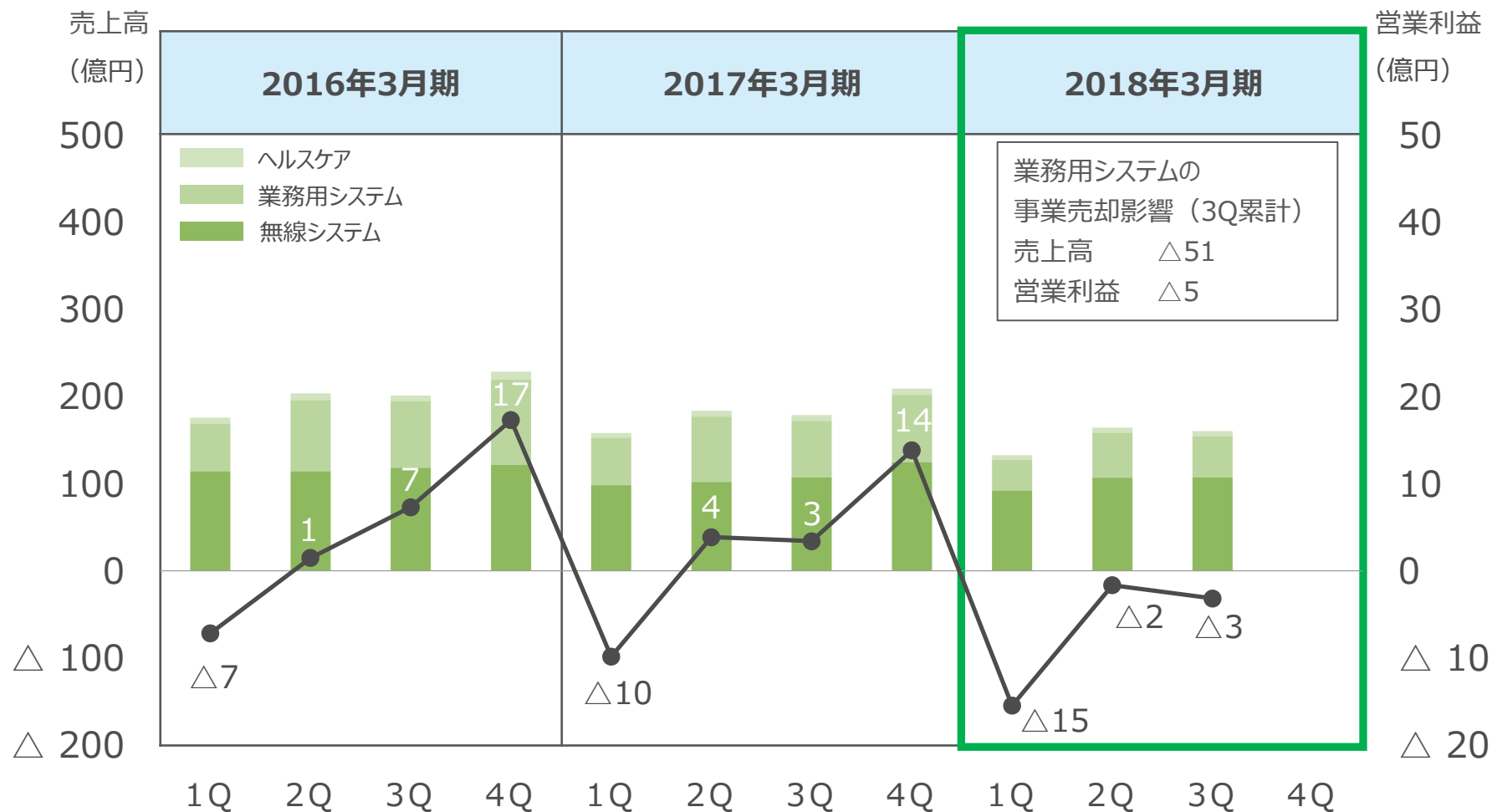
# 2018年3月期 3Q決算 AM分野 四半期別実績推移



	2017年3月期		2018年3月期	
	上期	下期	上期	下期
売上高	653	711	678	812
営業利益	△ 5	12	2	20

(億円)

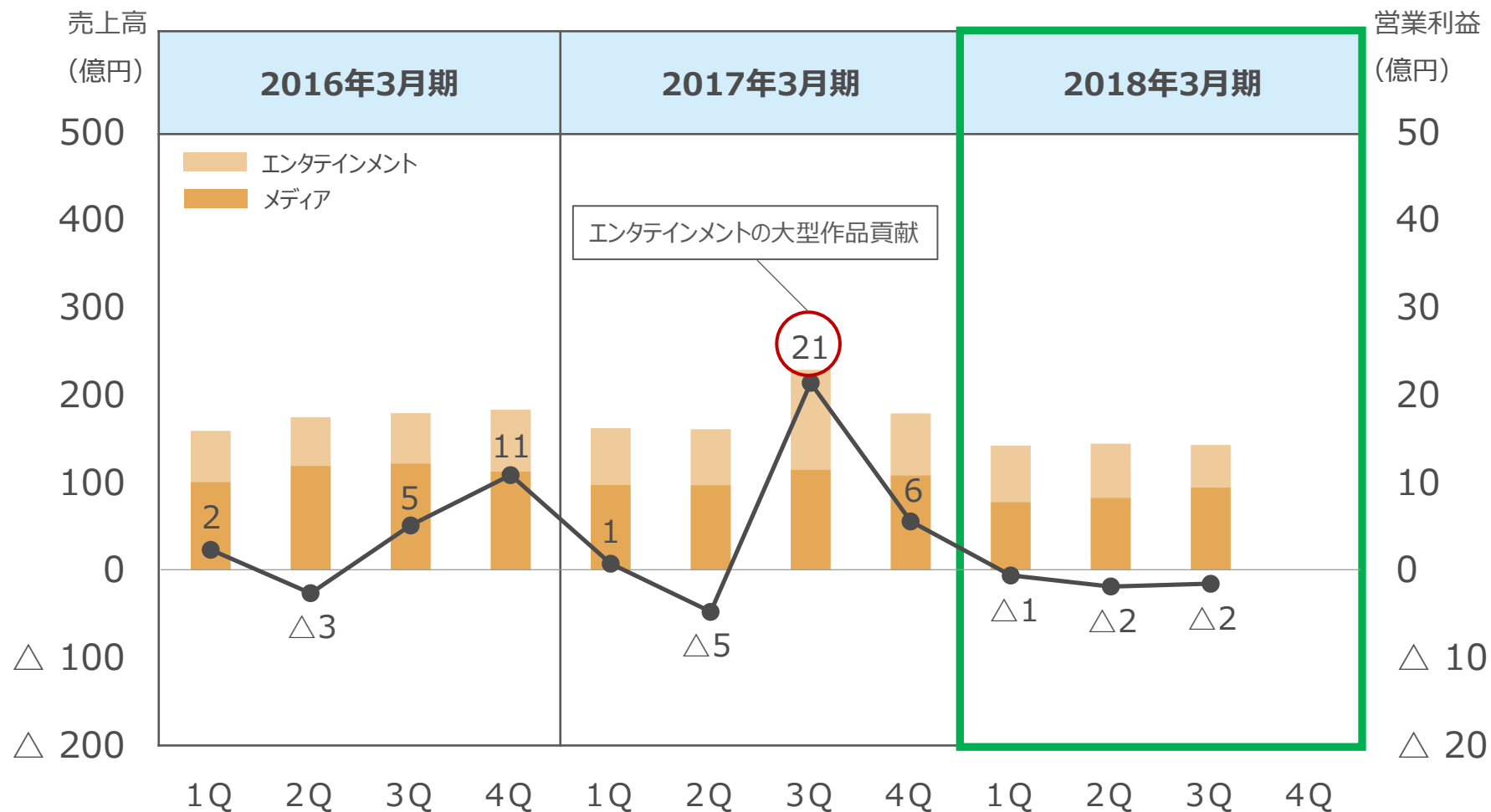
# 2018年3月期 3Q決算 PS分野 四半期別実績推移



(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	379	430	342	476	297	
営業利益	$\Delta 6$	25	$\Delta 6$	17	$\Delta 17$	

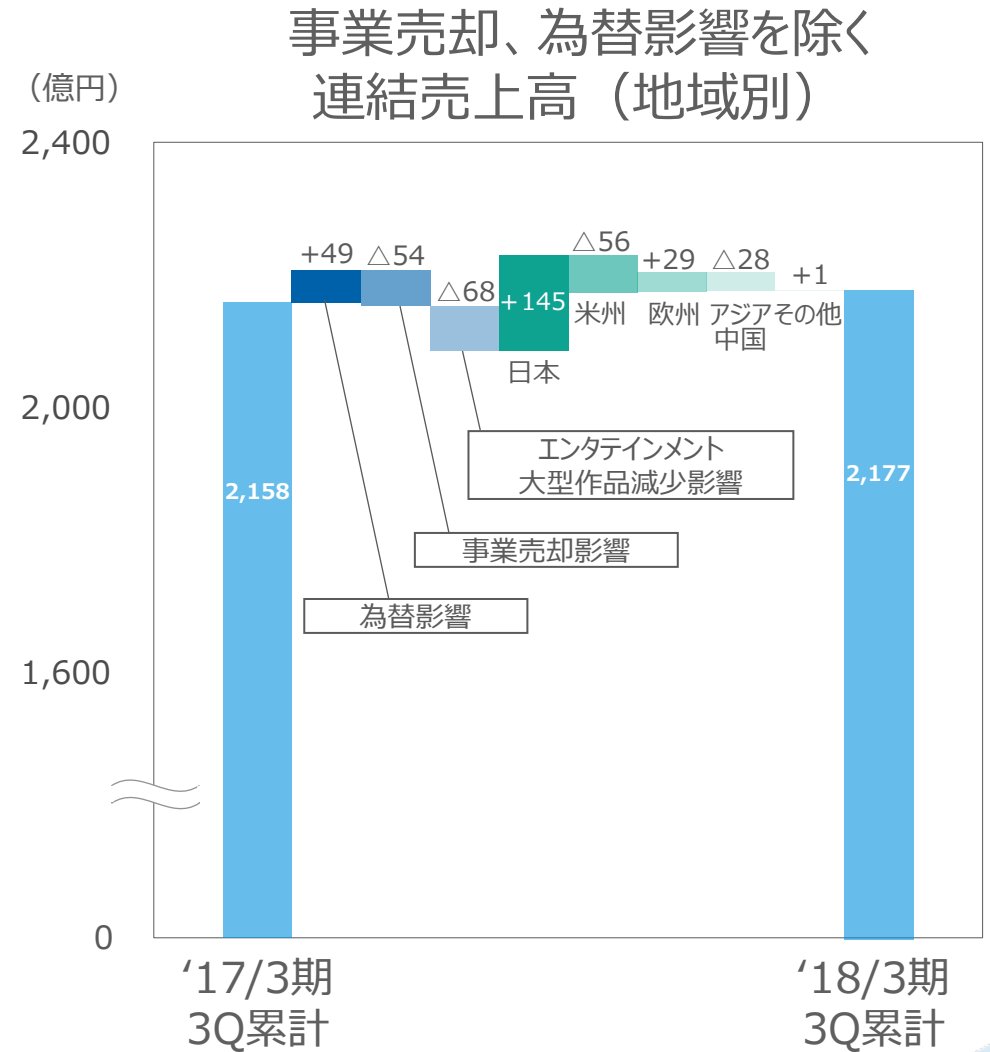
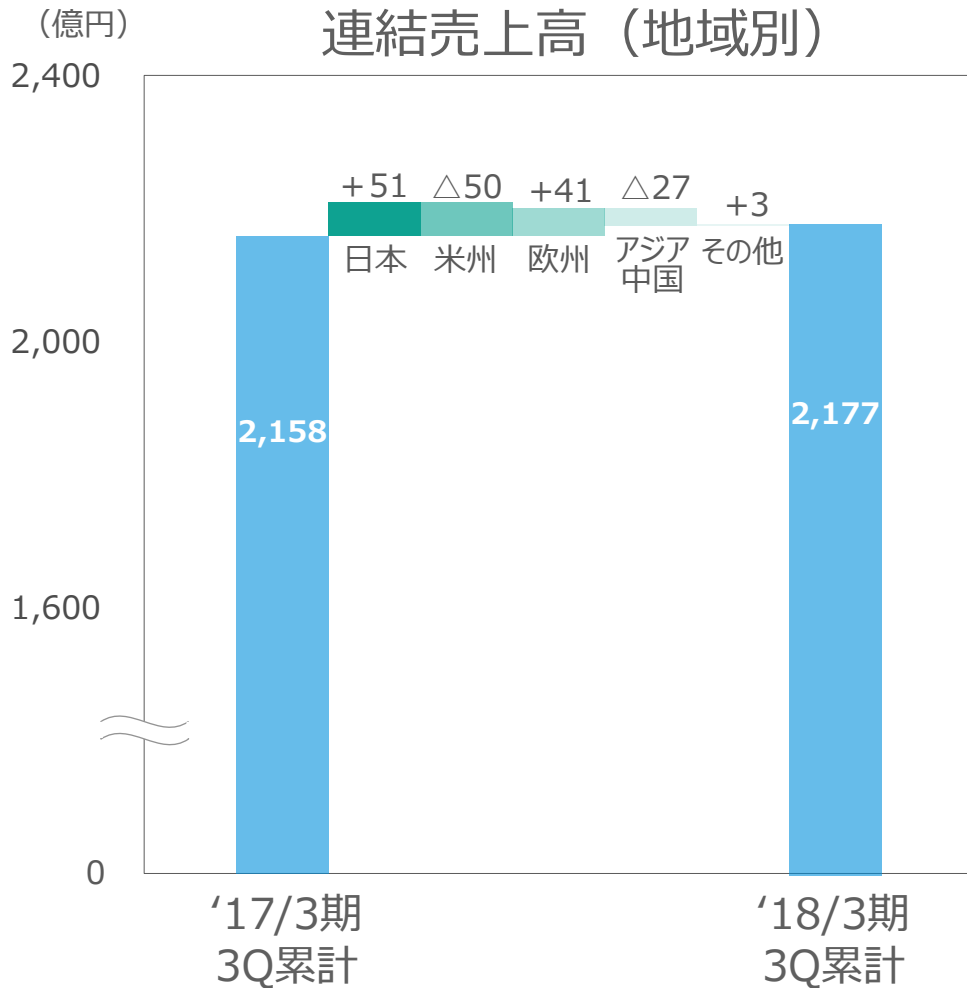
# 2018年3月期 3Q決算 MS分野 四半期別実績推移



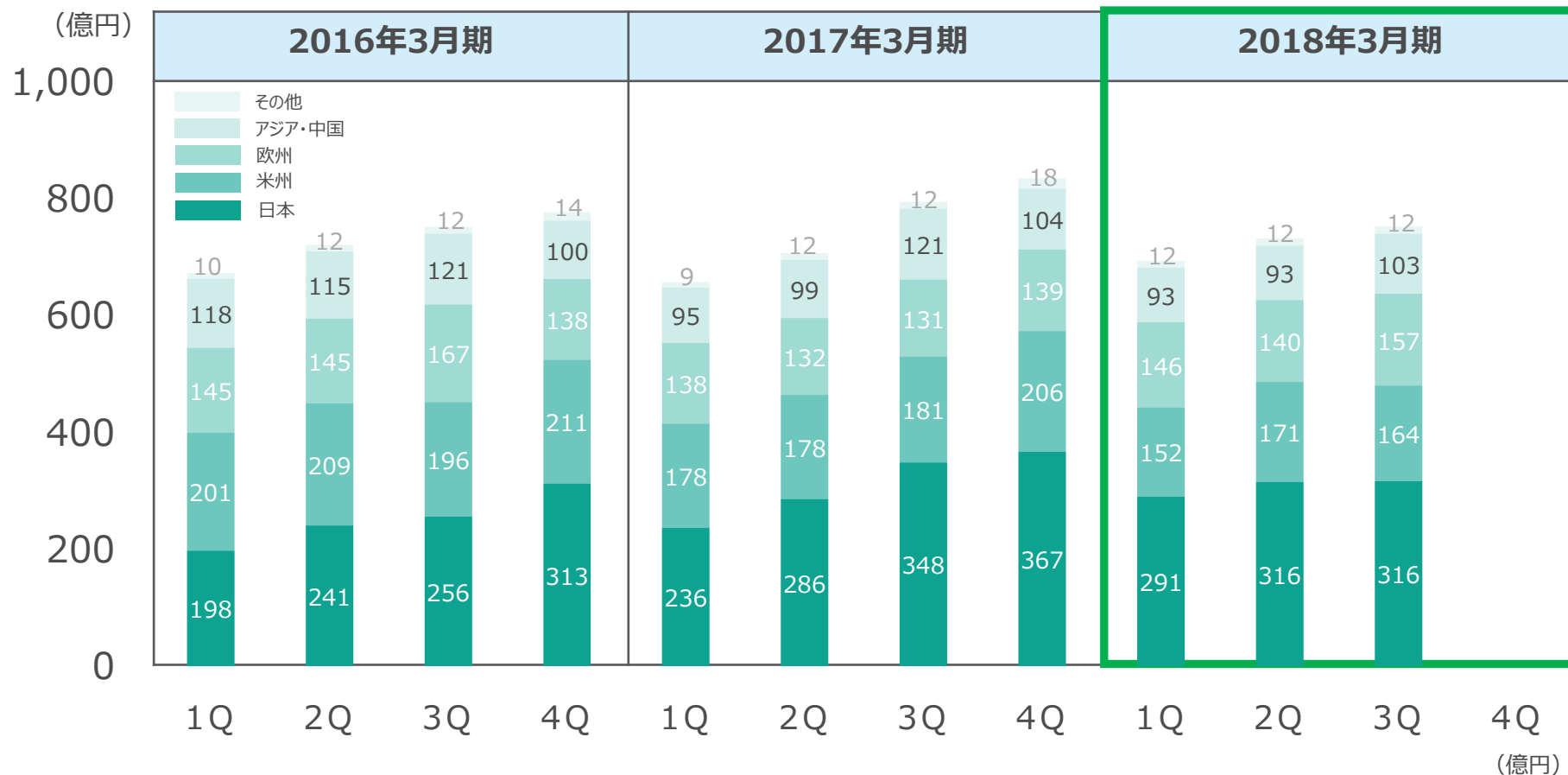
	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	333	361	322	406	285	
営業利益	△ 0	16	△ 4	27	△ 3	

(億円)

# 2018年3月期 3Q決算（累計） 連結売上高（地域別）

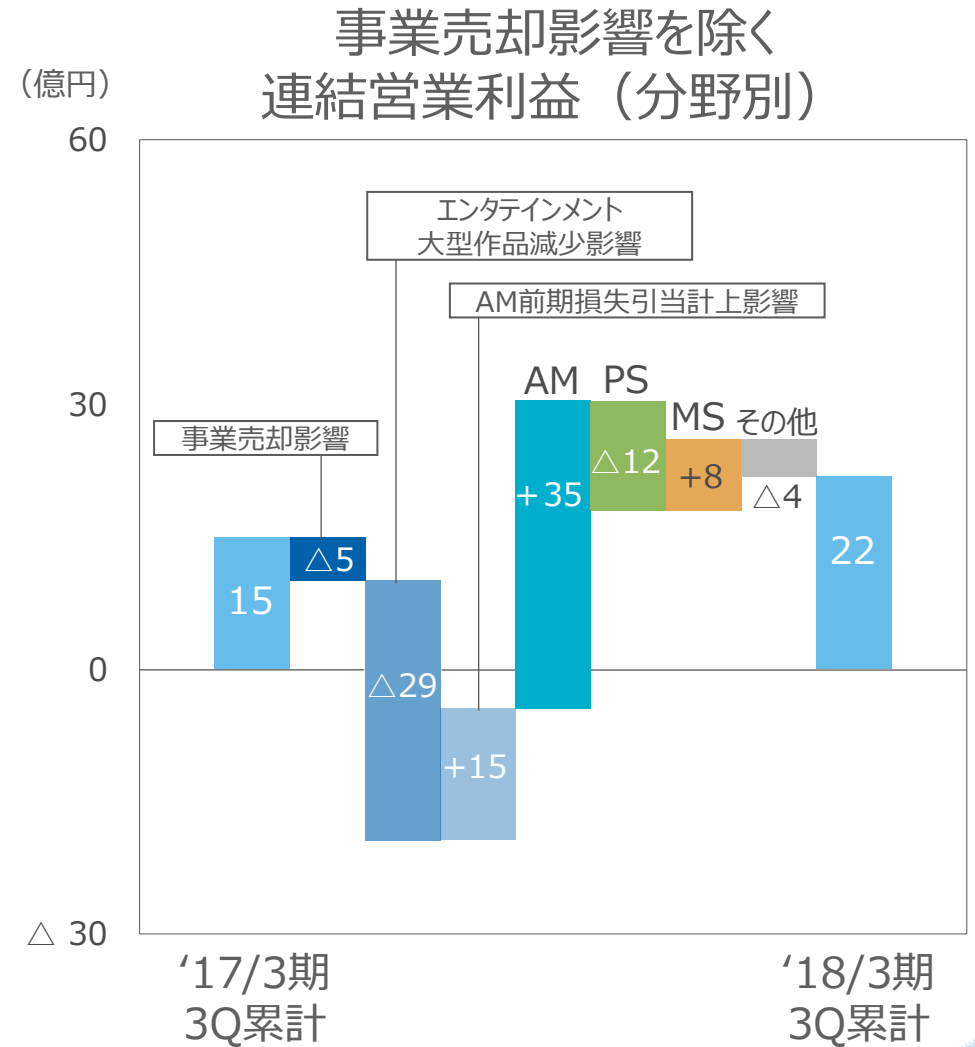
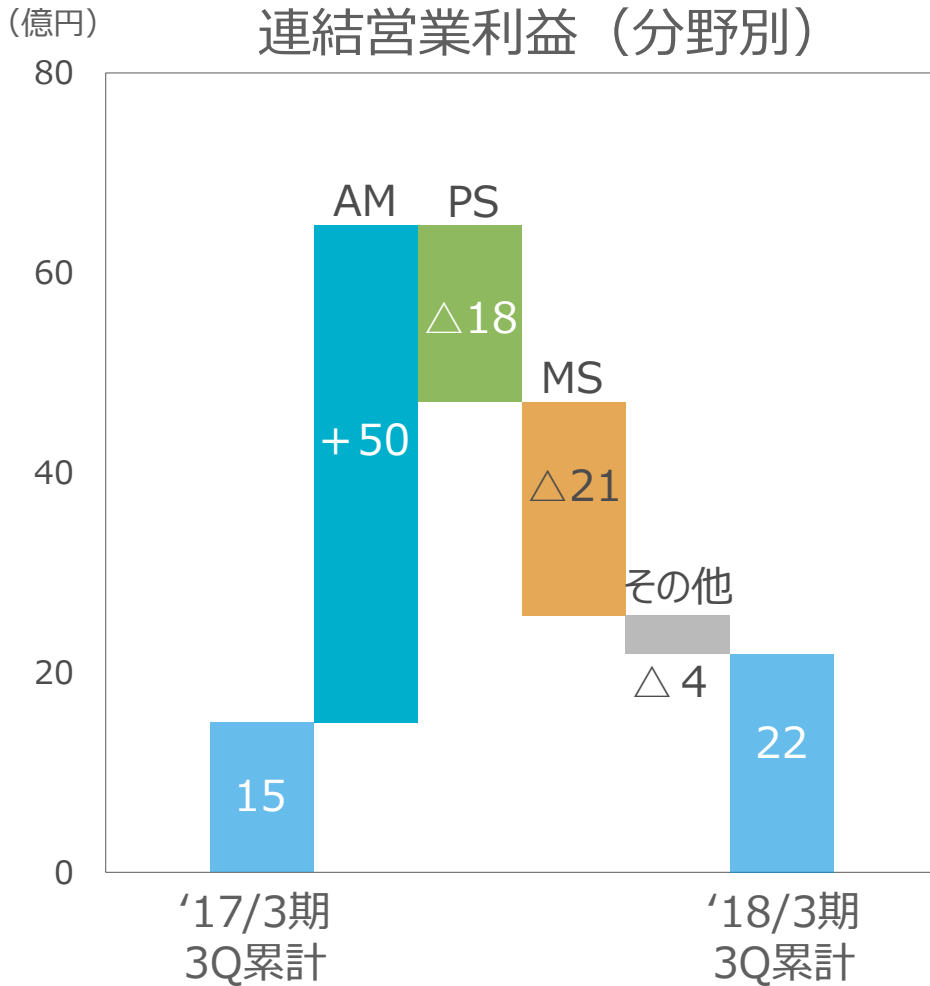


# 2018年3月期 3Q決算 地域別連結売上高推移



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
日本	439	569	523	716	606	
米州	410	407	356	387	323	
欧州	290	305	270	271	285	
アジア・中国	233	221	194	225	186	
その他	22	26	21	30	24	

# 2018年3月期 3Q決算（累計） 連結営業利益（分野別）



# 2018年3月期 3Q決算（累計）

## 連結経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益

- 営業利益の増加に加え、営業外収支の改善により、経常利益は黒字転換
- 経常利益の増加、特別損失の減少などにより、親会社株主に帰属する四半期純利益も黒字転換

(億円)

	'17/3期 3Q累計	'18/3期 3Q累計	増減
営業利益	15.0	21.8	+ 6.9
営業外収支	△ 17.5	△ 4.7	+ 12.9
経常利益	△ 2.6	17.2	+ 19.7
特別損益	△ 74.2	26.3	+ 100.6
法人税等	25.0	18.6	△ 6.4
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 107.4	18.3	+ 125.7

# 2018年3月期 3Q決算（累計） 営業外収支・特別損益の状況

(百万円)

	'17/3期 3Q累計	'18/3期 3Q累計	増減
営業外収支	△ 1,753	△ 467	<b>+1,286</b>
営業外収益	732	<b>1,060</b>	<b>+328</b>
受取利息	111	127	+16
受取配当金	181	119	△ 62
投資事業組合運用益	—	232	+232
その他	439	580	+141
営業外費用	2,485	<b>1,527</b>	△ 958
支払利息	692	662	△ 30
為替差損	651	147	△ 504
その他	1,141	717	△ 424
特別損益	△ 7,423	<b>2,634</b>	<b>+10,057</b>
特別利益	771	<b>2,728</b>	<b>+1,957</b>
固定資産売却益	110	825	+715
投資有価証券売却益	—	716	+716
関係会社売却益	560	—	△ 560
退職給付制度改定益	—	1,143	+1,143
その他	100	43	+41
特別損失	8,194	<b>94</b>	△ 8,100
固定資産売却損・除却損	1,388	80	△ 1,308
減損損失	5,310	—	△ 5,310
事業構造改革費用	262	8	△ 254
雇用構造改革費用	231	—	△ 231
関係会社清算損	273	—	△ 273
受注損失引当金繰入額	711	—	△ 711
その他	16	5	△ 11



# 2018年3月期 3Q決算 貸借対照表サマリー

(億円)

	'17/3期末	'18/3期 3Q末	増減
総資産	2,623	2,548	△ 74
有利子負債	703	672	△ 30
ネットデット	285	277	△ 8
ネットD/Eレシオ (倍)	0.51	0.45	△ 0.06
純資産	615	656	+ 41
自己資本	560	621	+ 60
自己資本比率 (%)	21.4	24.4	+ 3.0

# 2018年3月期 3Q決算（累計）キャッシュ・フロー サマリー

- 税金等調整前四半期純利益を計上したことに加えて、売上債権の回収による収入が増加したことなどから、営業キャッシュ・フローは増加
- 有形固定資産の取得による支出が減少したこと、有形固定資産の売却による収入が増加したことなどから、投資キャッシュ・フローは支出が減少

(億円)

	'17/3期 3Q累計	'18/3期 3Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	53	104	+ 51
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 133	△ 57	+ 76
フリー・キャッシュ・フロー	△ 80	46	+ 127
財務活動によるキャッシュ・フロー	2	△ 71	△ 73
合計	△ 78	△ 25	+ 54

※ フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

1. 2018年3月期 第3四半期決算概況

2. 2018年3月期 通期業績予想

3. トピックス

## 2018年3月期 通期業績予想および配当予想の修正

- 3Q累計期間は、AM分野OEM事業の好調な販売が継続したことから、PS、MS分野が減収となったものの、全社では期初に対して順調に推移
- 4Qは、AM分野でOEM事業の好調な販売を見込むが、現時点では売上高、営業利益予想は変更しない
- 経常利益、親会社に帰属する当期純利益予想は、営業外収益、特別損益ともに改善のため、以下のとおり修正
- 配当予想は、年間「5円」から年間「6円」へ修正

(億円)

	'17/3期 実績 ①	'18/3期 期初予想 ②	'18/3期 修正予想 ( '18/1/31発表 ) ③	'18/3期 期初予想差 ( ③-② )	'18/3期 前期差 ( ③-① )
売上高	2,993	2,950	2,950	0	△ 43
営業利益	58	64	64	0	+6
経常利益	36	44	50	+6	+14
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 67	14	25	+11	+92

1. 2018年3月期 第3四半期決算概況

2. 2018年3月期 通期業績予想

3. トピックス

# トピックス① オートモーティブ分野

## ■ 市販：

「東京オートサロン2018」で、“彩速ナビ”の最上位モデル「Type Z」やドライブレコーダー、カーAVユニット、リアモニターなどを訴求。堅調な国内市場でラインアップ拡充によるさらなる拡販を目指す

## ■ OEM：

純正ビジネス拡大に向け、専用設計のディスプレイオーディオとタッチパッドコントローラを搭載した三菱自動車製「エクリプスクロス」を「CES 2018」で展示



ドライブレコーダーとスマートに連携する“彩速ナビ”



「Apple CarPlay」と、「Android Auto™」  
に対応したカーAVユニット

## トピックス② オートモーティブ分野（ドライブレコーダー）

- 国内市場での需要拡大を受けて、2017年12月に市販と用品ビジネスの合計出荷台数が過去最高を記録

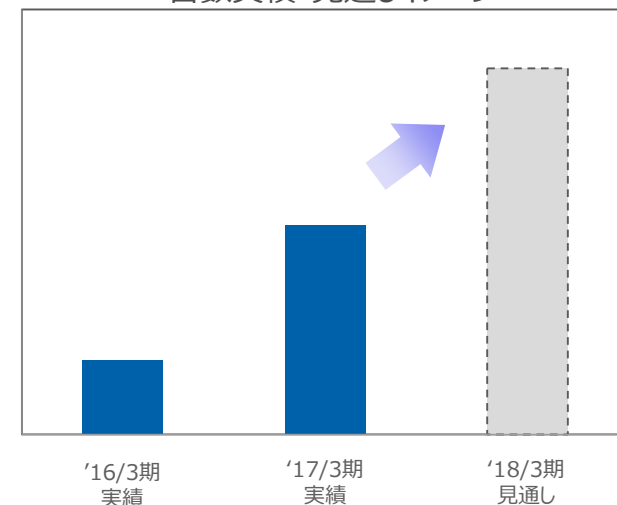


業界最高レベルの高画質を実現



フロント/リアカメラと“彩速ナビ”が連携

当社国内ドライブレコーダー  
台数実績・見通しイメージ



- フルハイビジョン高画質録画、HDR機能を搭載したエントリーモデルを新たにラインアップし、さらなる拡販を目指す



新たに発売を開始するエントリーモデル

- 市場拡大を見越して、米州や欧州でも本格導入に向けた取り組みを推進

## トピックス③ パブリックサービス分野（無線システム事業）

- 「DMR」システムに対応した中継器などの開発・販売を手がけるイタリアのRadio Activity社を2018年1月に子会社化、高機能と信頼性を兼ね備えた「DMR」対応無線システムソリューションの提供が可能に
- 米Sonim社との資本業務提携をベースとした協業により、KENWOODブランドのIP無線端末が大手携帯キャリア会社に採用決定



Radio Activity社が提供する  
「DMR」対応無線システムソリューション



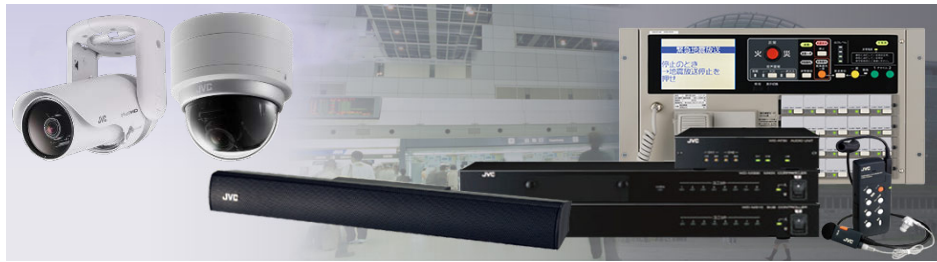
<KENWOODブランドIP無線端末>



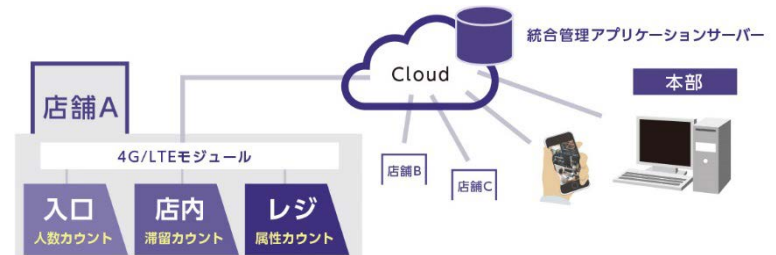
# トピックス④ パブリックサービス分野（業務用システム＆ヘルスケア）

## ■ 業務用システム

- 音響・監視カメラシステムの大型コンベンションホールへの受注拡大
- マーケティングカメラの商業施設への導入などソリューションビジネスの拡大



業務用音響システム・監視カメラシステム



マーケティングカメラシステムイメージ

## ■ ヘルスケア

OR※映像システムソリューションを手がけるドイツのRein Medical社との協業により日米市場へ参入を目指すにあたり、「HOSPEX Japan 2017」で先進のシステムを展示

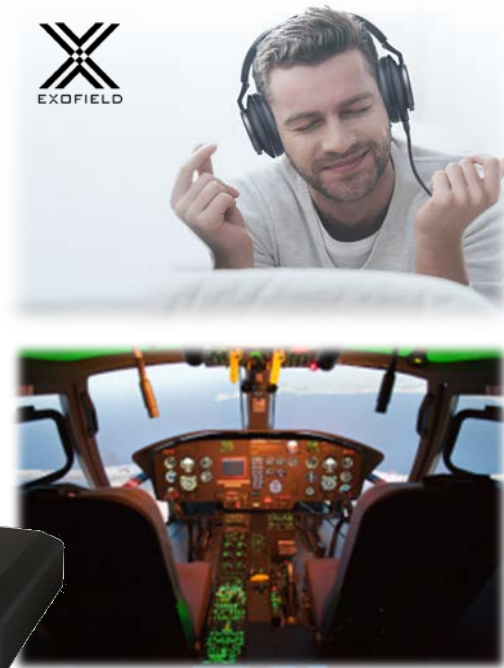
※Operating Room（手術室）の略



# トピックス⑤ メディアサービス分野

## ■ メディア

- 「CES 2018」で頭外定位技術「EXOFIELD」を実演。海外展開に向けた取り組みを開始
- Bluetooth対応イヤホンのラインアップ集中強化
- 大手シミュレータ企業へのプロジェクター出荷開始



Flight Simulator Image



## ■ エンタテインメント

- ビクターロック祭り～2018～5周年開催

- 4Q期待作品

桑田佳祐 DVD+BD「MVP」

星野源 DVD+BD「Live Tour “Continues”」

シングル 映画「ドラえもん のび太の宝島」主題歌「ドラえもん」

家入レオ アルバム「TIME」



Presented by Victor Entertainment

# JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。